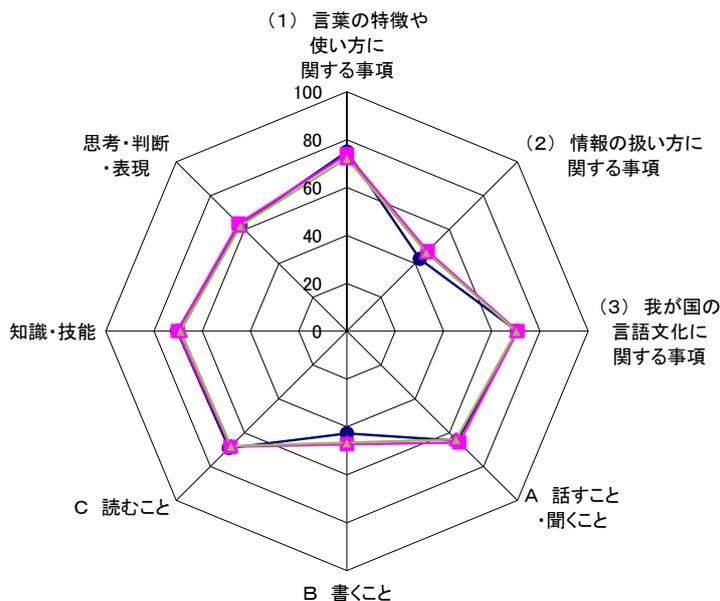
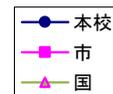


宇都宮市立豊郷中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	75.0	73.8	72.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	42.7	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	70.6	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	64.6	65.9	63.9
	B 書くこと	42.7	47.3	46.5
	C 読むこと	69.1	68.3	67.9
観点	知識・技能	70.4	70.2	69.0
	思考・判断・表現	62.5	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○平均正答率が市や国と比べて2ポイント程度上回った。中でも、「表現技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われたものを選択する」問題の正答率が県や国の正答率を15ポイント程度上回った。 ●漢字を書く問題では、県や国と比べて平均正答率が1～3ポイント低い。	・漢字を読むことはできるが、書くことを苦手とした生徒が多い。中学校での新出漢字は漢字テストを行っていたが、小学校で習った漢字も復習する機会を授業の中で設けていく。 ・テストの時だけでなく、他の授業などでも文章を書く際に、漢字を既習の漢字を使うよう指導していく。
(2) 情報の扱いに関する事項	●平均正答率が市や国と比べて4ポイント程度下回った。無回答率が県や国と比べて倍以上高い結果となった。また、資料を引用する際に、「」でくくらずに答えてしまったために、不正解となってしまう生徒が多い。	・一人一台端末の導入に伴い、図書資料だけでなくインターネット資料も使って情報収集する機会が増えた。国語だけでなく、総合の調べ学習等の時間でも著作権等の取扱いについて注意しながら、収集した情報を活用することができるように指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率が市や国とほぼ同じである。中でも、「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する」問題については、県や国の正答率を2ポイント程度上回った。 ●「漢字のバランスを説明したものとして適切なものを選択する」問題では、県や国と比べて2ポイント程度下回った。	・書写の学習を通して、行書の特徴や筆順についても意識して取り組めるようにする。また、行書だけでなく楷書の場合も同様に字形、文字の大きさ、文字の配列などだけでなく、行の中心についても注意する必要があることを理解できるように指導していく。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率が国よりも約1ポイント上回ったが、市よりも約1ポイント下回った。中でも、「考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」問題では、県や国よりも3ポイント以上上回った。 ●「論理の展開などに注意して聞く」問題では、2ポイント近く下回った。	・国語の授業時の話し合い活動やスピーチだけでなく、総合的な学習の時間の発表など、様々な場面で参加者全員が話し合いの話題や方向を捉えて話し合えるようにする。さらに、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめられるように指導していく。
B 書くこと	●平均正答率が市や国と比べて4ポイント程度下回った。無回答率が県や国と比べて倍以上高い結果となった。また、資料を引用する際に、「」でくくらずに答えてしまったために、不正解となってしまう生徒が多い。	・授業での意見文や鑑賞文だけでなく、スタンダードダイアリーや各種行事の振り返りなどを書く際に、言葉の使い方や文のねじれ、意見と根拠の関係などに注意して目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章を書けるように指導していく。
C 読むこと	○平均正答率が市や国よりも約1ポイント上回った。中でも、「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を理解する」問題では、県や国よりも2ポイント程度上回った。 ●無回答率が県や国と比べて2ポイント以上高かった。	・説明文や論説文などを読む際、文章の構成や展開を捉えることのポイントや簡潔な表現、断定的な述べ方などの筆者の特徴を捉えさせ事実と意見を明確に捉えるよう指導していく。 ・自分の意見をまとめる際には、必ず根拠を考えて書くようにより一層指導していく。